

事務事業評価シート(平成22年度実績分)

(1) 事務事業の名称・位置づけ【Plan1】

白色のセルのみ入力してください。(コメントを見ながら入力)

事務事業コード	事務事業名	担当課	担当係名	所属長(課長等)名	担当者係長名
08203	埋蔵文化財整理活用事業	教育委員会	文化係	向山 光	福島 永
		一次評価年月日	平成 22 年 6 月 2 日	連絡先(内線)	2504
事務事業実施の根拠・位置づけ	予算における位置づけ (会計区分・事業コード・事業名)	会計区分	事業コード	事業名(歳出予算見積書)	
	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 特別	1068	埋蔵文化財発掘事業		
	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 特別	#N/A			
	第四次総合計画後期基本計画の施策体系における位置づけ	章 (コード選択)	5章	まなび合う社会の創造	
		節 (コード選択)	3節	地方分権化に積極的に対応する	
		項[基本施策] (コード選択)	531	文化遺産の保護と伝承	
主な取り組み (コード選択)		5315	埋蔵文化財の整理活用(埋蔵文化財報告書・埋文調査報告書刊行)		
関連する計画等への位置づけ	<input type="checkbox"/> 第四次行財政改革大綱 <input type="checkbox"/> 3ヶ年実施計画 <input type="checkbox"/> 主要業務報告 <input type="checkbox"/> その他				
事務期間	(開始) 年度 ~ (終了予定) 年度	開始時期不明 <input type="checkbox"/> 終期設定なし <input type="checkbox"/>			

(2) 事務事業の内容(目的と手段を把握します。)(Plan2)

①対象(～に対して)……この事務事業はどんな人(誰・何)を対象に行っていますか。

・国民 ・特に未来を担う子どもたち

②目的(意図)(～という状態にするために)……この事務事業のサービスを提供することによって対象をどういう状態にしたいのですか。

埋蔵文化財の発掘調査によって得られた資料(遺構・遺物等)を整理保存して、将来の人々に記録を残す。

③手段(事業内容)(～を行う)……上記①の対象に対して、どのような手段で②の目的(意図)を達成するか、事業の実施内容(サービスの概要)を記入します。

- これまでに発掘調査を行った遺跡の遺構図面や遺物の整理作業。実測、作図、説明・考察原稿の作成。
- 埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行。
- 展示公開による情報の提供。
-

(3) 活動指標の設定と推移……(2)の③サービスの概要(手段)の指標を表します。【Do1】

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度		
		21年度	22年度	22年度	達成率	22	年度(見込み)	
①	指標名	遺構図面・遺物実測、作図作業	時間	7,300	7,723	9,416	0.82	7,723
	説明	遺構図面・遺物実測、作図作業延べ時間	目標値設定の根拠	残すべき記録の作成作業に係る時間数				
②	指標名	報告書の刊行、展示公開	件	1	3	2	1.50	3
	説明	報告書の刊行、展示公開遺跡数	目標値設定の根拠	情報の提供機会の件数				

(4) 成果指標の設定と推移……(2)の②目標(意図)の達成度を指標で表します。【Do2】

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度		
		21年度	22年度	22年度	達成率	22	年度(見込み)	
①	指標名	遺構図面・遺物実測、作図枚数	枚	1,750	3,100	1,825	1.50	3,100
	説明	遺構図面・遺物実測、作図作業終了枚数	目標値設定の根拠	実施年度からの推計				
②	指標名	報告書の配布	冊	200	600	300	1.50	600
	説明	報告書の配布総数	目標値設定の根拠	情報の提供を多くの人に、広い範囲で提供すること				

(5) 総事業費(コスト)の推移【Do3】

※事業費の算定方法

決算書・予算書等に記載の数字 按分計算による算定

○総事業費(コスト概算)	=①+②	(千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度						
			決算	決算	決算	見込み						
対前年比		%	18,548	24,324	22,627	20,683						
A) その他の財源(国庫支出金・県支出金・地方債・分担金・使用料・雑収入など)			8,688	9,655	16,623	14,285						
B) 一般財源(税金)			9,860	14,669	6,004	6,398						
①事業費		(千円)	13,298	19,055	16,992	14,285						
対前年比		%		143.3	89.2	84.1						
②人件費の概算		(千円)	5,250	5,269	5,635	6,398						
対前年比		%		100.3	107	113.5						
			課長	課長補佐	係長	一般職員	延べ人数	年間人件費	年間人件費	年間人件費	年間人件費	
			H21 H22 H23	H21 H22 H23	H21 H22 H23	H21 H22 H23	H20 H21 H22 H23	/	/	/	/	
町職員(正規職員)			0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.67 0.79	0.84 0.00 0.00	0.84 0.84 0.67	0.79	5,250	5,269	5,635	6,398
臨時職員			人数及び人件費の算出は別シートで計算となっています。(人件費計算式)シート						0	0	0	0

指標化

(6) 項目別評価 [Check]

視点	項目別評価	判定	評価結果
必要性	1. 事業のニーズに変化はありますか	B	A 増加傾向にある B 変化していない C 減少傾向にある D かなり減少している
	2. 町(行政)が関与する必要性がありますか	A	A 町が主体となる必要がある B 町以外の主体で実施できるが町の関与は必要 C 町も関与するが関与の度合いを縮小できる D 町の関与のあり方を再検討する
目的妥当性	3. 対象の設定は妥当ですか	A	A 対象は現在の設定が妥当である Bの場合その具体的な内容をお書きください B 対象の変更の余地がある →
	4. 目的(意図)の設定は妥当ですか	A	A 目的(意図)は明確で上位の施策に合致している Bの場合その具体的な内容をお書きください B 目的(意図)は上位の施策に合致していない点がある →
有効性	5. 期待された成果は得られましたか(成果指標の目標値への達成度)	A	A 期待したとおりの成果があった C・Dの場合その具体的な内容をお書きください B 概ね期待したとおりの成果があった C 期待したほどの成果が得られなかった → D 成果が少なく今後も向上する見込みがない →
	6. 連携可能な事務事業はありますか(町以外の取り組みも含めて)	A	A すでに実施している A・Bの場合その具体的な内容をお書きください B 今後は可能性がある → 文化財保護事業 C 今後も可能性はない
効率性	7. 成果を下げずにコスト(事業費・人件費)を削減できますか	A	A 余地なし C・Dの場合その具体的な内容をお書きください B 当面は余地なし C 一部余地あり → D かなり余地あり →
公平性	8. 受益者負担は適切ですか	A	A 検討の余地なし C・Dの場合その具体的な内容をお書きください B 当面検討の余地なし C 一部検討の余地あり → D かなり検討の余地あり →
その他	9. 現在の事業内容(サービス)に対して、対象の声やニーズを把握していますか	A	A アンケートなど具体的な方法で把握している A・Bの場合その具体的な把握方法を、Cの場合その理由をお書きください B 日常業務の中で把握している → 報告書の配布 文化財保護審議会 C 把握していない

(7) 改革改善 [Action]

今後の方向性(上記評価結果をもとに今後の方向性を記入します。) を一つチェックしてください。

- ア. 現状のまま継続する イ. 見直しのうえで継続する ウ. 終期設定 エ. 廃止 オ. 休止

〈今後の展開方針〉(イを選択した場合のみ を一つチェックしてください)

- a 重点化する(コストを集中的に投入する等)
 b やり方を改善する(実施主体や実施の手段を変える)
 c 効率化を図る(コストを下げる)
 d 縮小する(簡素化する)
 e その他(別事務事業に統合する等)

(ウ・エ・オを選択した場合のみ記入してください)

時期(年度)

事業改善の経過

(前年度で記入した事業の方向性の具体化内容についての評価やこれまでに事業改善をした経過を記入します。)

神谷所遺跡の調査報告書を刊行することができた。また、年度途中で新たに行った、羽場城跡遺跡の調査報告書も刊行することができた。

事業の方向性の具体化

(誰が、何を、いつまでに、どうするか(5W1H)等の改革改善案を記入します。)

教育委員会が、平成22年度末までに、ふるさと雇用特別事業等を利用して、神谷所遺跡・おんまわし遺跡の遺物整理作業を終了する。

23年度予算見積書への反映 あり なし

[反映内容]

遺物整理委託事業(補助金)

(8) 所属長 所見 (事務事業の総合評価及び今後の方向性について)

(評価事務事業の責任者の意見として、総合的な評価に関する所見を記入します。)

埋蔵文化財の発掘調査によって得られた資料(遺構・遺物等)を整理保存の必要性を踏まえて、着実な予算化によって事業を進める。

上位の施策の推進に貢献していますか。 をチェック

- A. 貢献度 大 D. 上位施策なし
 B. 貢献度 中
 C. 貢献度 小

(今後の方向性 を一つチェックしてください。)

- ア. 現状維持 イ. 見直しのうえで継続する ウ. 終期設定 エ. 廃止 オ. 休止

➡ 上記 a~e を選択